

修学旅行や校外学習等の体験活動時における
新型コロナウイルス対策ガイドライン(第7版)

沖縄体験ニライカナイ

2020年11月1日

1. 本ガイドラインについて

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020年5月4日)において、「今後、感染拡大の予防と社会経済活動の両立を図っていくに当たっては、特に事業者において提供するサービスの場面ごとに具体的な感染予防を検討し、実践することが必要になる。社会にはさまざまな業種等が存在し、感染リスクはそれぞれ異なることから、業界団体等が主体となり、また、同業種だけでなく他業種の好事例等の共有などを含め、業種ごとに感染拡大を予防するガイドライン等を作成し、業界をあげてこれを普及し、現場において、試行錯誤をしながら、また創意工夫をしながら実践していただくことを強く求めたい。」とされました。これを受け、同専門家会議の提言の中にある「各業種のガイドライン等の作成に当たって求められる基本的な考え方や留意点の例」等に留意しながら、新型コロナウイルス感染症の終息までの当面の対策を作成いたしました。

作成に当たり、一般社団法人日本旅行業協会の「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き(第1～3版)」、同「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン(第1版)」、NPO 法人自然体験活動推進協議会の「自然体験活動・自然教育・野外教育・環境教育を実施している事業体における新型コロナウイルス対応ガイドライン(第1版)」、アソビュー株式会社の「観光施設向け新型コロナウイルス対策チェックリストについて」、DAN JAPAN の「COVID-19 とダイビング活動」等を参考にしました。

その後、体験教室連絡会の「体験教室向け新型コロナウイルス対策ガイドライン(第1版)」とアクティビティツアー連絡会の「アクティビティツアー向け新型コロナウイルス対策ガイドライン(第1版)」及び10月27日に開催された「沖縄県修学旅行受入事業者防疫対策セミナー」での感染症専門医の高山義浩先生(厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部参与)の助言等により、大幅な見直しを行いました。

今回の見直しでは、学校側の感染対策の要望レベルに応じ、お引受出来る体験とその具体的対策を記載しています。ご確認下さいますようお願い申し上げます。

本ガイドラインは、最新の専門家の知見、利用者や学校側のご要望、受入態勢等を踏まえて、必要に応じて見直しています。

2. 新型コロナウイルス感染対策の基本について(高山医師資料・※印弊社追記)

どこにいる

- ・感染している人が触れた場所
- ・感染している人から2メートル以内
- ・感染している人のいる密閉された空間

どうやってうつる

- ・感染している人が触れた場所を触って、自分の目鼻口を触る。
- ・感染している人から2メートル以内に、マスクを着用せずにいる。
- ・感染している人のいる閉鎖された空間で、一緒に長時間過ごす。

どうすればいい

- ・感染している人が触れた可能性がある場所に立ち入らない、または消毒する。
※感染している可能性がある人が触れた器材や室内を5日以上使用しない、または消毒する。
- ・感染している人から2メートル以内に立ち入らない、またはマスクを着用する
- ・感染している人のいる閉鎖空間に立ち入らない、または換気をよくする。

3. 感染対策の基本方針について(学校側の感染対策の要望レベル)

- ①体験者や教職員が弊社スタッフから感染することがないように対策を行うこと
- ②体験者が弊社スタッフや指導員に感染させないように対策を行うこと
- ③体験者間の感染防止にも出来る限り努める(屋内の生徒間の距離 1m確保)こと
- ④体験者間の感染対策も徹底(生徒間の距離 2m確保)すること

※ご利用希望時に、①から④のどのレベルまでを求めるかをお知らせ下さい。

感染対策のご要望レベルにより、お引受出来る体験プログラムや体験人数が決定されます。(レベル④希望時は、弊社ではお引受出来ません)

4. 具体的な対策について

新型コロナウイルス感染症の最もよくある症状の「発熱」、「空咳」、「倦怠感」や時折みられる症状の「痛み」、「鼻水・鼻づまり」、「のどの痛み」、「下痢」、「結膜炎」、「頭痛」、「味覚や嗅覚の消失」、「皮膚の発疹、手足の指の変色」などを特に注意して健康チェックを行う必要があります。また、感染症の主な感染経路である飛沫感染と接触感染について、社会的距離の確保や接触防止策及び除菌や消毒方法を明示し、学校側の要望に応じた感染防止対策を徹底して実施いたします。

1) 弊社スタッフの健康管理について

- ・ 毎日、営業開始前に体温と症状の有無を記録・保存し、新型コロナウイルス感染症と疑われる症状が発生した者は自宅待機にします。また、勤務中に具合が悪くなったスタッフは、予備スタッフと交代の上、直ちに帰宅させ自宅待機とします。
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合及び同居家族に同感染症と疑われる症状がある者は、出勤させずに自宅待機とします。
- ・ 体温は各人の平熱を基準に1度以上の場合は、その他の症状が全くない場合でも帰宅させ、自宅待機とします。
- ・ 勤務前、休憩後、外出帰社後を含め、定期的に消毒用ソープで手指洗いの後、常備しているペーパータオルで拭き取ることを徹底します。
- ・ 全スタッフにはマスクを配布し、ミーティングや打合せもマスク着用するか、オンラインか電話等で行うようにし、密対策も併せて行います。

2) 指導員、受入担当者の体験者様への対策について

- ・ 指導員や受入担当者が出勤前に体温と症状の有無を記録・保存し、新型コロナウイルス感染症と疑われる症状が発生した者は自宅待機にし、予備スタッフと交代します。
- ・ 指導員や受入担当で同感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合及び同居家族に同感染症と疑われる症状がある者は、指導させずに自宅待機とします。
- ・ 指導員や受入担当者には専用の体温計を所持させ、体験者に使用する場合は必ずアルコール消毒を行った後に計測するようにします。
- ・ 体温が平熱を基準に1度以上ある者は、その他の症状が全くない場合でも指導させずに、自宅待機とします。体験者が新型コロナウイルス感染症と疑われる体調不良時は、体験への参加や来場をお断りしています。※下記3)参照
- ・ 定期的に消毒用ハンドソープで手指洗いをしっかりと行うことを徹底しています。手洗場がないところやハンドソープが使用出来ない場所では、アルコール消毒液を準備し、適宜、消毒出来るようにしています。
- ・ 全スタッフにはマスクを着用し、密集や密接にもならないように徹底いたします。
- ・ 体験の内容や状況、要望によりフェイスシールドを装着し指導します。
- ・ ユニフォームやエプロン、衣服等は指導後に毎回こまめに洗濯いたします。

3) 新型コロナウイルス感染症が疑われる場合(管轄保健所と指定病院)

- ・ 同感染症が疑われる事例が発生した場合は、保健所に連絡し対応を相談します。
※中部保健所 098-938-9701 / 県立中部病院 098-973-4111(うるま市・車 27分)
※修学旅行生や教職員の熱発時は、「旅行者専用相談センター098-840-1677」へ
6時~23時(土日祝含む)

4) 沖縄体験ニライカナイの推奨体験プログラムについて(2020年11月1日第7版)

★感染対策が可能なお奨めの体験は下記の通りです。(沖縄県の警戒レベルは8頁)

①サトウキビ(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・野外のサトウキビ畑での刈り取り作業と開放施設での黒糖作り

※黒糖作り等で、従来は生徒様が行っていた工程を指導員が行う場合もあります

②漆喰シーサー(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・抗菌作用のある強アルカリ性の漆喰を使う開放可能施設での個人毎の体験

※従来は参加者6~7名で1テーブルを3~4名に2(又は大1)テーブルとします。

③海細工(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・ビーチで素材拾いと開放可能施設でのアクセサリー等の個人毎のクラフト作り

※従来は参加者6~7名で1テーブルを3~4名に2(又は大1)テーブルとします。

④イノー(沖縄及び発地が同3以下、学校要望レベル③以下)

・自然海岸でのビーチトレッキングと生き物探し(荒天時は海細工)

※マリンシューズも事前に次亜塩素酸ナトリウム液で消毒します。マリンクラフト付きプランは、海岸でのマリンクラフト作りが天候により実施できない場合もあります。

⑤洞窟探検(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・野外や自然洞窟内での鍾乳石や生き物観察を午前午後各1校限定の体験

※1回に45名までと受入人数制限を行った上に、事前説明のレクチャーを十分にを行い、学校側の要望レベルにより生徒間の距離も取るようにして洞内を案内します。

⑥護岸釣り(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・漁港や海浜公園の護岸でのキャッチ&リリースの1地区1校限定の体験

※1回に45名までと受入人数制限を行った上に、事前説明のレクチャーを十分にを行い、学校側の要望レベルにより生徒間の距離も1m以上取るよう指導します。

⑦シーカヤック(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・自然海岸での2人のリカヤック講習とビーチ探検を1地区1校人数制限の体験

※カヤック講習中の生徒間(顔の位置)は130cm、指導員は緊急時を除き、1m以上の距離を取ることが可能。ビーチ探検も同様に距離を取ることが可能です。

⑧シュノーケリング(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・自然海岸でのシュノーケリング講習とビーチ探検を受入人数制限しての体験

※シュノーケリング講習の指導員との距離は、緊急時を除き1m以上取ることが可能。

海上で生徒間距離を1m確保要望時には、フロートにつかまる生徒2名迄になりますが、同室の生徒様達を1チームとしてお引受する場合もあります。

※バナナボートで生徒間の距離が必要時は、1艇10名定員が4名迄になります。

※学校側の要望レベルや感染状況等で対応方が変わります。予めご相談下さい。

⑨サンゴ(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・海岸観察と開放可能施設でサンゴの苗作り等(警戒レベル3時は最大40名)

5) 沖縄体験ニライカナイのプログラム中で対策が困難な体験について(第7版)

★感染対策が難しい体験は下記の通りです。(沖縄県の警戒レベルは8頁)

- ⑩パイン(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・食材と器材を共有し指導員との距離が近く、高齢者の指導員が多い
 - ⑪沖縄菓子(沖縄及び発地が警戒レベル2以下、学校要望レベル②以下)
 - ・食材と器材を共有し指導員との距離が近く、高齢者の指導員も比較的多い
 - ⑫沖縄そば(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・食材と器材を共有し指導員との距離が近く、高齢者の指導員が多い
 - ⑬沖縄料理(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・食材と器材を共有し指導員との距離が近く、高齢者の指導員が多い
 - ⑭うちなんちゅ(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・指導員との距離が近く、三線や踊りもある家庭内交流体験で高齢者が指導
 - ⑮サンシン(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・密閉室での体験で指導員との距離が近く、高齢者の指導員が多い
 - ⑯エイサー(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・太鼓の音が大きくなるため密閉室での体験で指導員との距離も近い
 - ⑰琉球舞踊(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・密閉室の体験で指導員との距離が近く、高齢者の指導員が多い
- ※⑮～⑰は開放施設で可能な恩納村観光協会(TEL098-966-2893)をお勧めします。
- ⑱やちむん(業務見直しのため引受中止)
 - ⑲ハーリー(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・海人との接触や生徒同士の接触や大声での発声等を止めにくい
 - ⑳船釣り(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・高齢者も多く、海人との接触や生徒同士の接触も避けにくい
 - ㉑マリジェット(沖縄及び発地が警戒レベル1以下、学校要望レベル②以下)
 - ・指導員と生徒、生徒同士の接触が避けられず、歓声も止めにくい

※パイン、菓子、そば、料理体験は班毎でボールなどの器材を共有し、班毎に作成し生徒間の距離を体験作業中において常に1m以上を取ることが難しいプログラムです。生徒間の距離を1m以上取る必要がある場合は、お避け下さい。

※上記の対策が困難な体験は、新型コロナウイルス感染が指定感染症2類(実質1類)時に策定したものです。今後、指定感染症の分類の見直しやワクチンの接種の開始、治療薬の使用が行われた時には弊社としても、全面的に見直す予定です。

6) 沖縄体験ニライカナイの感染対策の具体的な内容について

- ・新型コロナウイルス対策は、主に5項目の対策(消毒、健康管理、換気、社会的距離、マスク着用)から構成され、以下に内容の詳細を示します。

項目	具体的な内容
消毒 (手指・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗場がある施設においては、常備した消毒用ハンドソープで行う ・手洗場がない場所では、アルコール消毒液(65~82vol%)で手指消毒 ※アルコール濃度 70vol%未満のものは効果が確認された界面活性剤入を使用 ・体験中に体験者や指導員が触れる設備や器具について、事前事後に加え体験中も定期的にアルコール除菌スプレーやアルコール除菌タオルで消毒する ・手洗場と体験場所に、サトウキビのペーパータオルを準備 ・消毒や手洗いによる手荒れやアレルギーに注意し、アルコール消毒に支障がある体験者用に非アルコールタイプの除菌タオル類を準備 ・マリン体験等のウエットスーツやシュノーケル、マスク、マリンブーツ、手袋などは次亜塩素酸ナトリウム液(200ppm)に60分以上浸して完全消毒する ※完全消毒が出来ない場合は、消毒後5日以上使用していないものを使用 ・次亜塩素酸水や次亜塩素酸ナトリウムなどの空中への噴霧等、健康被害を引き起こす可能性があるものやエビデンスがないものについては使用しない
健康管理 (スタッフ・体験者)	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフは営業開始前に体温を測定し、体温を記録し本部に報告をする ・接触型体温計は使用前後にアルコール消毒液で必ず消毒しておく ・全スタッフは営業開始前に症状の有無を確認し記録する。症状があれば本部に報告をして指示を受けること ・体温が平熱より1度以上高い場合や該当する症状が一つでもあれば、本部に連絡して休業か受診かを判断する ・65歳以上で持病があるスタッフは感染時に重症化したり、合併症を引き起こしたりする可能性が比較的高いので、学校側と本人の強い要望がある場合を除き、沖縄と発地の双方が終息するまでは指導することを一時停止する ※サトウキビや釣り、イノー等で大人数(または2校目)での希望時は、70歳未満の指導員を補助的に配置することもある ・体験者には、2週間程度の事前の検温と健康チェックをお願いする
換気 (密閉対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・開放施設のやまだ体験広場多目的施設やまだ体験館のテラス利用の体験以外の施設での体験は、2方向以上の窓を常時、開けておくことを基本とし、エアコンや扇風機、ヒーター等で温度管理も注意深く併せて行う ・体験中に途中1回は休憩時間を取り、窓を全開にして換気を行う ・公共施設等で換気が出来ない箇所は、出入口のドアを開放するか使用しない

項目	具体的な内容
社会的距離 (密集対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員は体験前に消毒、社会的距離、マスク着用(高温時等を除く)依頼を口頭又は掲示やツールで行う(学校側には旅行社を通じ、事前に要請を行う) ・指導員は学校側の感染対策の要望レベルに応じ、当面の間は生徒と社会的距離(2mまたは1m)を保ちマスクを着用し説明を行う ・指導員は口頭で説明する部分を出来るものはツールを用いて行う ・当面の間、指導員は体験開始から出発まで体験者には接触をしない ・当面の間、指導員は出発時も社会的距離を保ったままで見送りを行う ・弊社所有施設のやまだ体験広場やまえた体験館は人数制限(少人数以外貸切対応)を行い、専用管理施設のマリブビーチ、ミッションビーチ、仲泊海岸の更衣室やシャワールームも出来る限り、利用時間中は貸切対応に努める ・青の洞窟シュノーケリングにおいて、公共施設の真栄田岬内更衣兼シャワー室は貸切対応が出来ないので、利用時は要注意(マリブビーチ利用を勧める) ※青の洞窟内が密となる可能性が高い日は他のビーチに誘導する ・シュノーケリングやバナナボート等で、野外においても生徒間の距離 1m確保 要望校時は、マリンジェットを除き感染レベル 2(流行警戒期)以下で引受 但し、感染レベル 3 でも、野外で生徒間の距離を必要としない場合は引受可能
マスク着用 (密接対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員を含む全スタッフは、体験者を受入中はマスクを常時着用する ・未終息地域や終息地域に関わらず、体験者にはマスクの着用をお願いする ※マスクの着用が出来ない体験者にはフェイスシールドを準備し提供する ・高温時の野外体験時等で社会的距離を確保出来る場合は、指導員や体験者に常時マスク着用の強制をしない(熱中症にも十分に注意する) ・指導員は指導(学校)毎に、1日1～2回程度マスクを変えるものとする ・屋内施設で生徒と対面して説明等を行う場合は、アクリル板を設置する ・アクリル板を設置出来ない場所では、指導員はマスクとフェイスシールドを当面の間、着用して説明等を行う(野外で2m以上確保時はマスクのみ着用) ・全ての体験箇所には、マスクやフェイスシールド、ゴム手袋(非ラテックス製)、レインコート類の予備を準備する

5. 沖縄県の警戒レベル指標について(2020年11月1日現在、感染警戒レベルは第3段階)

沖縄県内の医療体制や感染状況、参考指標を検討し警戒レベルの指標を策定しています。下記 HP で「沖縄県の警戒レベル及び判断指標の最新状況」が判明します。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/koho/corona/20200702.html>